

2024年3月7日(木)

## 地域との連携に向けて ～合同避難訓練の実施～

多摩大学と本校は、去る2月19日(月)、多摩市と災害時における避難所等の施設利用に関する災害協定を締結しました。多摩市の説明によれば、市内に34か所の避難所が指定されており、1万2千人の収容確保ができています。首都圏直下型地震の被害想定によれば約4千人分が不足とのこと。同協定により、本校キャンパスを避難所として活用し、900人分の収容確保を可能にすることになりました。

とは言え、これまで近隣地域の皆様に、本校の様子や施設を十分ご説明・ご案内する機会はありませんでした。そこで、期末試験の最終日に当たる3月6日(水)午前10時、震度6の首都直下型の地震が発生したという想定で避難訓練を行いました。当日は、気温9℃と冷たい雨模様でしたので、急遽、避難場所をグランドから体育館へと変更し、10時5分から生徒は移動を開始。10時12分には全員が体育館に集合、点呼・安全確認を終えました。これに併せて、今回初めて避難訓練への参加を地域の皆様方に呼びかけたところ、聖ヶ丘四丁目町会長さん、東部団地自治会長さんをはじめ、多摩市立聖ヶ丘小学校校長の高藤 浩先生、多摩市役所防災課および多摩市社会福祉協議会の方々など総勢25名の皆様にご参加くださいました。私たちとしても、地域連携に向けた取り組みの第一歩を踏み出すことができ、とても心強く感じました。訓練後には、池田事務長の案内で地域の皆様に施設の一部を案内、見学していただきました。

また、多摩市の資料では学校周辺地域は高齢化率が高く、かつて校長ブログで『行動できる避難者たれ』という拙文に示したように、災害はいつも「想定外」であり、いざというときはまず自分の身の安全を確保した後、地域の要望に応え、柔軟に協力・行動できる生徒であってほしいと願っています。そのための備えとして、日頃から訓練を重ねて行こうと思います。



避難訓練後の校長講評



地域の皆さんに備蓄倉庫案内

今後は、学校と家庭・地域住民・市町村関係部局・消防が協力して、防災教育や防災訓練を実施するなど、日頃から防災意識の発揚、発災時の対応などについて連携して、効果的な取り組みが実践できるよう、皆様と相談しながら連携を深めていきたいと考えています。

参考

「読売新聞」2024年2月24日付、地域版 多摩13s

「タウンニュース」多摩版2024年2月29日付(No.223)

校長 石飛 一吉